



2014年度 夏期スクーリング

2014年7月25日(金)～27日(日)

充実のスクーリング



中医薬膳師通信教育コース 山田 文代

初日の緊張した気持ちは、劉先生の講義で一変しました。中国四千年とも一億年とも言われる奥深い中医学・薬膳学を解りやすく丁寧教えていただきました。その中で中医学は文学だといわれました。相手の症状からあらゆることを想像し弁証・立法を立て、薬膳料理を創造し、文字の組み合わせも美しく表現されているということでした。そのお話を聞いて私は中国の小説家魯迅を思い出しました。魯迅が、日本に留学されていたときの恩師である藤野先生は懇切丁寧に勉強を教えました。後に魯迅は小説「藤野先生」を書きました。私には、劉先生のお心と優しいお援舞いが小説の藤野先生と重なってとてもうれしく思いました。他の先生方も事務局の皆様も同様で安心して質問をさせていただきました。

授業では、髪の毛から爪の先まで、体の内部も外部もすべてが自然界との関わりがあることを知り、すべてに感謝の気持ちと、中医学の面白さを実感しました。

薬膳料理では、塩味だけでこんなに美味しく出来るのかとびっくりしました。ますます勉強意欲がわいてきて、生涯の課題が見つかったような気がしています。

今回のスクーリングでは、若い人たちの中で楽しく勉強させていただき感謝しています。



～2014年夏期スクーリングに参加して感じたこと～

中医薬膳師通信教育コース 山本 祐三

現在、薬剤師として調剤薬局で働いており、患者さんには薬の説明、飲み合わせや副作用の有無の確認などの服薬支援をしています。何か物足りなさを感じていました。

調剤薬局に来られる方は、何かしらの病気を持たれている方です。

西洋医学は、急速に発展したすばらしい医学ですが、病気を診ることがメインのため養生、未病に関しては弱い印象があります。

しかし東洋医学は人を診ることがメインで、特に中医学は、理論形成と根拠がしっかりしており、それに繋がる薬膳は、食薬学として養生、未病に対し有効であると思います。

食事は1日3回食べるため食薬学である薬膳は、お薬の服用と同様に大事なことです。

病気がある以上、これ以上悪化させないよう、そして治ってからは病気にならないようアドバイスできるように薬剤師としてできることは何かと考えた結果、養生、未病について薬膳を学びたいと思い、日本で早い段階から薬膳教育に力を入れている本草薬膳学院の通信コースに入学しました。

中医学の予備知識は多少なりともあったのですが、今回、辰巳先生による本場中医薬膳の基礎理論や歴史のお話、平尾先生による迫力のある五行と五臓六腑、薬膳立法の解説、松本先生の丁寧な薬膳調理実習を受けたことでよりいっそう理解が深まり、これまでは「薬膳」は頭の中では体に良い物、けど家庭で料理するには難しいもの等々、漠然としたイメージしかありませんでしたが、スクーリングを終える頃には「これが薬膳なんだ!!」と思えるようになりました。

そして、辰巳先生の多くの人に薬膳を知ってもらいたいという気持ちが強く伝わりましたので、自分も少しでも力になれるよう精進します!!

最後に、同じ志を持つ方々が集まるスクーリングに参加して自然とモチベーションが高まり、課題に取り組む姿勢が変わりました。

ぜひ通信コースの生徒さんは、早めの受講をお勧めします!!

